

北海道を世界に発信するための英語表記の実態調査

プロジェクト代表者: 小林 敏彦

1. プロジェクトの目的・概要

本プロジェクトは、北海道を訪問する外国人の便宜を図る手法のひとつとして、英文掲示物の数を増やすことを最終目的とし、その前段階としてまず道内の街角、建物の中、店舗、宿泊施設等における英文掲示の実態を把握するために現地に赴いて撮影し分析するものである。北は宗谷地方(稚内、利尻)から根室、函館、札幌、小樽、千歳、洞爺湖等の観光地を中心にできる限りのフィールド調査を行い、今後の対策の指針とする。

2. プロジェクトの進捗状況について (~H28.10)

2016年10月30日現在で、以下の4地方のフィールドリサーチを終了している:

地(知)の拠点整備事業地域志向型研究プロジェクト 調査記録#1

期間:2016年7月17日日曜日~18日月曜日
場所:北海道天塩郡天塩町、遠別町
宿泊:遠別町本町3丁目 旅館ふじや
内容:街中の英文撮影、和文のみの館内案内
総評:英文表記のない典型的な小規模旅館(外国人宿泊もある)以下は、英文の併記が望まれる和文掲示物である。



地(知)の拠点整備事業地域志向型研究プロジェクト 調査記録#2

期間:2016年7月28日木曜日~29日金曜日
場所:利尻島、鴛泊町
宿泊:北国ホテル
内容:街中及びホテル館内の英文撮影、鴛泊町役場観光課で聞き取り調査を行ったが担当者不在。



地(知)の拠点整備事業地域志向型研究プロジェクト 調査記録#3

期間:2016年8月14日日曜日~15日月曜日
場所:稚内市
宿泊:チサンホテル
内容:街中及び道路標識、ホテル内の英文撮影、公園の掲示物撮影
総評:つづり、語彙、統語等、多種類のエラーが特定できた。



地(知)の拠点整備事業地域志向型研究プロジェクト 調査記録#4

期間:2016年9月4日日曜日~6日火曜日
場所:羽幌町(天売島、焼尻島)
宿泊:サンセットプラザ
内容:レンタル自転車を使用して島を一周し街中及び道路標識、国定公園の英文撮影、商店聞き取り調査
総評:島内での英文表記は極めて少なく、安全に関わる注意書き等の英文表記が望ましい。



3. 今後の取組予定について

今後は、期間と予算の都合により、フィールドリサーチは限定的とならざるを得ないが、函館および根室周辺の調査を予定している。北海道全体を周遊し、全体像を把握するには、なお数年の年月を要すると思われる。とりあえず、年度中に収めた画像の分析を行い、英文表記を増やすための具体的な提言を行う予定である。なお、ここで報告し提示した画像の一部は、今年、9月韓国のソウル市にある国民大学で開催されたSAI (STEM-ATEM-ICEM)国際大会でThe Ubiquitous Presence of Funny English Signs in Japan: patterns and strategies to avoid themのタイトルのもとで発表済みである。今後、東京オリンピックの前に来日する外国人がさらに増える現状を踏まえ、英文の表記の増設はもとより、不適切な英文表記の撤去や修正も同時に進行させなければ、我が国の民度が疑われ、イメージの低下を招き国益を損する恐れがあることを申し添える。